

平成30年度 単位施策評価表

所属 38300000
生涯学習部 スポーツ振興課

施策	5301 スポーツ環境の充実							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	市民全般							
施策が目指す姿	身近なスポーツ施設や運動広場の利用環境の充実、各種スポーツ団体の育成及び活動支援等を図る。							
成果指標	体育館及びグラウンド等の施設利用者数...2022年度で1,200,000人(現状値1,086,964) 軟式野球大会や卓球大会等の体育協会主催事業参加者数...2022年度65,000人(現状値55,351人)							
目標達成状況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	成果指標1 [人]	予定	1,110,000.00	1,133,000.00	1,156,000.00	1,178,000.00	120,000.00	
		実績	1,082,829.00					
	成果指標2 [人]	予定	57,000.00	59,000.00	61,000.00	63,000.00	65,000.00	
		実績	63,253.00					
		単位コスト	2.74					
	成果指標3 []	予定						
		実績						
		単位コスト						
	成果指標4 []	予定						
		実績						
		単位コスト						
	トータルコスト(千円)	予定	220,885	268,249	260,941	0	0	
		実績	173,018	206,679	260,941	0	0	
内部評価	貢献度	上位基本施策の目標指標「体育館・グラウンド等の施設への市民満足度」を向上させるためには、適切な維持管理が必要なことから本単位施策の目標達成による貢献度は高い。						
	達成状況	「施設の利用者」は目標をほぼ達成することができた。また今後も、市のホームページやSNSを活用し、周知に力をいれていく。						
	課題	各施設の老朽化が進み、修繕にかかる費用が増加することが予測され、長寿命化計画などを策定し、計画的に施設の修繕を行っていく必要がある。						
	取組方針	施設の点検等により、修繕の必要な個所の早期発見・修繕に努める。施設を適正に管理し、快適な利用環境を利用者に提供する。						
外部評価	体育協会主催の事業については、SNSの利用や体育協会のラジオ番組の開始などにより参加者を募集するなど工夫されていることは評価できる。 トイレの洋式化など施設が改修されているが、各施設が老朽化していることから、施設の統廃合・合理化を検討するなど、利用しやすい環境づくりをしていただきたい。 各施設の駐車場の混雑緩和にあたり、施設管理者任せにならないように、行政も一体となり利便性向上の取組みを願いたい。							
単位施策達成のための事務事業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)		達成度
	550101	体育施設共通管理費（栃木）				2,979		100
	550103	体育施設共通管理費（藤岡）				3,056		100
	550105	体育施設共通管理費（西方）				6,570		100
	550106	体育施設共通管理費（岩舟）				3,093		100
	550201	運動場夜間照明施設管理費（栃木）				1,822		100
	550501	尻内河川敷運動場管理費				392		100
	550801	大塚運動広場管理費				5,106		100
	550901	剣道場、弓道場管理費				718		100
	551001	ニュースポーツ広場管理費				433		100
	551603	藤岡総合体育館管理費				13,033		100

[illegible]

単位施策評価表 補表

施策	5301 スポーツ環境の充実		
区分	妥当性	妥当	対象、事業手法、目的ともに妥当である。
	コスト削減の余地	有	本単位施策のコストを下げることは可能と考えるが、各事業間の調整が必要である。
	受益者負担	適正	施設利用者には妥当な受益者負担を求めている、適正である。
	上位貢献度	有効	上位目標指標を向上させるためには、適正な維持管理が必要なことから本単位施策による貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	他に類する事業で代替は困難である。
	成果向上の余地	有	施設維持管理における工夫や事業間調整。
内部評価	貢献度	上位基本施策の目標指標である「体育館・グラウンド等のスポーツ施設への市民満足度」を向上させるためには、市民やスポーツ団体が日常的かつ継続的にスポーツ活動に取り組むことができるよう身近な施設を確保することが必要なため本単位施策の目標による貢献度は高い。	
	達成状況	「施設の利用者数」は目標を達成することができた。 「体育協会の主催事業の参加者数」については、市のSNSの利用や体育協会のラジオ番組の開始など事業の周知に努めたため参加者が増加した。なお、今後も市のホームページやSNS等を活用し、周知を図る。	
	課題	多くのスポーツ施設は昭和50年代に建設されており、施設の老朽化が著しい状況にあり、毎年のように部分的な修繕を実施している。利用者に快適な利用環境を提供するため、長寿命化計画等を策定し、適切な施設管理と維持補修を行う必要がある。	
	取組方針	学校夜間照明施設については、老朽化した施設が多いため、計画的な更新に努める。また、体育館等の施設についても、利用頻度や利用人数等を勘案しながら、修繕・改修を行う。 2022年のとちぎ国体に向け、会場となる施設の修繕・改修を行う。 体育施設の予約については、体育館等において大会等の予約の日程調整会議を行い、利用者間の調整を図っている。	